

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-139	13-124	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Associations between IQ and alcohol consumption in a population of young males: a large database analysis. 若い男性における IQ とアルコール消費の関係：大規模データベースの分析		
<b>執筆者</b>		
Mario Müller, R. Kowalewski, S. Metzler, A. Stettbacher, W. Roessler, S. Vetter		
<b>掲載誌</b>		
Soc Psychiatry Psychiatr Epidemiol. 2013 Dec;48(12):1993-2005. doi: 10.1007/s00127-013-0666-2.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
知能指数, 飲酒, 禁酒, 交絡因子, 全人口調査		23443272
<b>要 旨</b>		
<b>目的：</b> Intelligence quotient (IQ)と飲酒量の関連を若い男性の大規模データベースを用いて検討した。この研究では IQ が飲酒量によって影響を受けるか、またどの経路が関与している可能性があるかについて検討した。さらに、非飲酒者と禁酒者において IQ の違いがあり、その IQ の差がそれぞれのグループの特性によるものであるとする仮説を検討した。		
<b>方法：</b> この研究では IQ テストを使った横断的な精神医学的疫学調査を、スイスの徴兵者 50,000 人(概ね 20 歳)を対象に実施した。対象者はアルコール消費頻度による 4 つのカテゴリー(まれ(年に 1~5 回), 時々(月に 1~5 回), 中程度(週に 1~5 回), 毎日)と酒を飲まない 2 つのカテゴリー(過去飲酒、非飲酒)に分けられた。非飲酒者と飲酒者の飲酒頻度、過去飲酒者と IQ との関連について変量ロジスティック回帰分析で検討した。教育歴、障害年金、タバコや大麻の使用、移住、親の多量飲酒、精神状態を調整した。		
<b>結果：</b> 交絡因子を調整後、一般知能 IQ は飲酒頻度(まれ、時々、中程度)と正の相関を示した(まれ; オッズ比 1.13; 95 %信頼区間 1.07-1.19, 時々; オッズ比 1.41; 1.33-1.48, 中程度; オッズ比 1.53; 1.45-1.62)。過去飲酒者とは負の相関関係を示した(オッズ比 0.85; 95 %信頼区間 0.79-0.93)。毎日飲酒者は、動作性 IQ と正の相関を認めた(オッズ比 1.12; 95 %信頼区間 1.02-1.22)。交絡因子は有意に IQ-アルコール関係に影響を与えており、飲酒しない群を生涯の非飲酒者と過去飲酒者に区分することは重要だった。		
<b>結論：</b> IQ と中程度(1~5 回/週)の飲酒には正の相関があることが分かった。非飲酒者のうちで IQ が低いことは、飲酒開始時期が若いことと関連し、またその他のリスク要因もあると考えられた。		